

暮らしとかわるすべての水循環の経路を、私たちのセンターでは「里川」と呼んでいます。いろいろな里川を発見しその価値を身近に感じたい！ ということで、2011年度からスタートした「里川文化塾」。「鶴見川の洪水対策～都市河川の治水施設を考える」と、「水のおはなし会～河童の伝説とめぐる水の物語～」を実施しました。

里川文化塾

詳細はHPで公開します。

<http://www.mizu.gr.jp/bunkajuku/>



第17回里川文化塾 鶴見川の洪水対策 都市河川の治水施設を考える

会期：2014年5月23日（金）

見学・訪問場所：(1) 川和遊水地（横浜市都筑区）

(2) 鶴見川流域センター（横浜市港北区）(3) 鶴見川多目的遊水地（横浜市港北区）

講師：早迫 義治さん（はやさこよしはる） 国土交通省関東地方整備局 京浜河川事務所 流域調整課長

講師：藤崎 伸二郎さん（ふじさき しんじろう） 神奈川県 県土整備局 横浜川崎治水事務所 河川第一課長

講師：南部 信治さん（なんぶのぶはる） 公益財団法人横浜市体育協会

前 新横浜公園管理局事業部担当課長（現・神奈川スケートリンク管理課長）

第18回里川文化塾 水のおはなし会 河童の伝説とめぐる水の物語

会期：2014年6月14日（土） 12時50分～16時30分

会場：東京都水道歴史館 3Fレクチャーホール

語り手：川原 ユウジさん（かわはら ゆうじ） おはなしプロデューサー

企画協力：古賀 邦雄さん（こがくにょ） 古賀河川図書館 館長

／ミツカン水の文化センターアドバイザー

2014年度の里川文化塾 開催予定

8月2日、9日

（ともに土曜日）2回開催

第19回里川文化塾

わくわくすいすい水辺探検

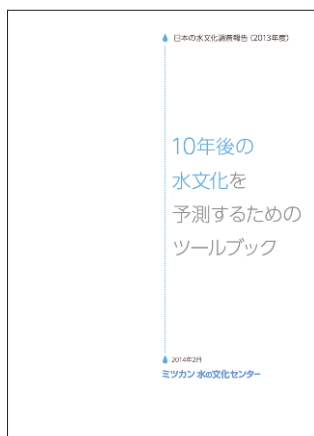


調査報告

詳細はHPで公開しています。

<http://www.mizu.gr.jp/chousa/#toolbook>

**10年後の水文化を
予測するためのツールブック**



かつて日本人は湖沼や河川、井戸から水を汲み、それを運んで暮らしていました。しかし、今は蛇口をひねれば飲み水が出て、水洗トイレはレバー一つできれいになります。下水道の普及によって衛生面も向上しました。飲み水の確保さえまもなく、乳幼児の死亡率が高い途上国に比べれば、この変化は喜ばしいことと言ってよいでしょう。

その反面、水をめぐって成り立っていたコミュニティが失われ、上下水道の普及で費やすエネルギーが膨大になるなど負の面もあります。でも、元の不便な生活に戻ることはきっと不可能です。

日本社会はこれからさまざまな問題と直面します。人口減で国や行政の税収は少なくなるでしょうし、上下水道をはじめとする社会インフラを支えてきた担い手も減少するはずで。

はたして日本は、今の水文化を次代に引き継げるのだろうか——。これが「10年後の水文化を予測するためのツールブック」をまとめた出発点です。

少し先の未来である「10年後」を念頭に、官公庁や公的機関が発表している水に関するオープンデータを集めて現状を把握し、注目すべきポイントを探りました。まだまだ不十分ですが、1人でも多くの人たちと一緒に「健全な水文化の継承」を考えるきっかけになればよいと思っています。

■水の文化48号予告

特集「減災センス」(仮)

「自分の命は自分で守る」という気構えを鍛えるために、現代社会で進化する減災情報と、歴史からの学びを融合させる知恵を探ります。



水の文化 Information

『水の文化』に関する情報をお寄せください

本誌『水の文化』では、今後も引き続き「人と水とのかかわり」に焦点を当てた活動や調査・研究などを紹介していきます。

ユニークな水の文化楽習活動や、「水の文化」にかかわる地域に根差した調査や研究などの情報がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

ホームページのお問い合わせ欄をご利用ください

<http://www.mizu.gr.jp/>

水の文化 バックナンバーをホームページで

本誌はホームページにてバックナンバーを提供しています。

すべてダウンロードできますので、いろいろな活動にご活用ください。

里川文化塾レポート詳細版は、ホームページで

里川文化塾のレポート詳細版は、参加できなかった方も楽しめる内容です。今年度の企画についても、詳細は順次ホームページでご案内します。ご注目ください。

編集後記

◆老朽化、長大橋架設による経済・文化圏の変化など橋にかかわる問題もいろいろありますが、一つひとつの橋にも歴史とそこで暮らす人々の思いがあります。川舟で橋を下から見ると新しい発見も。何気なく通る橋を違った視点から見るといかがでしょうか。(後)

◆設立以来、水の文化センターの活動にかかわってきたものの、定年退職とともに老兵は去ることとなりました。これまでこの活動を支えてくださったすべての方に御礼を申し上げます。また、これからの活動にもお力添えをお願い申し上げます。最後の挨拶にかえさせていただきます。ありがとうございます。(新)

◆個人的には、大阪の取材が興味深かった。何十回と通つてきた道頓堀。風が気持ちいい季節には北浜テラスでもよく飲んでみた。嗚呼、大阪に住んでいる時に橋の魅力や歴史を十分に理解していれば、水都大阪をもっと楽しめただろう。(亜)

◆想い出に残る橋は高校の修学旅行で行った長崎県の「西海橋」。その大きさと美しさに感動したのを今でも覚えている。サンフランシスコのゴールデンゲートブリッジ、ゴッホの絵に描かれた跳ね橋を探しに行ったこともある。アビニヨンの橋の上では歌いながら踊ってみたりした。意外と私は「橋」に魅力を感じていたのだ。(ゆ)

◆自宅の最寄り近くには、小さな橋がある。普段は当たり前存在だが、桜の時期には、短い橋の上を歩きながら、お花見をするのが実は些細な楽しみだ。小さな自宅への架け橋に、これからはもう少し目を向けていきたい。(原)

◆橋のようなスケール感の構造物にある、長く残すという宿命しかし「朽ち果てない」頑強さも大事だが、たとえ姿形を変えても長く「使われる」ことが重要に思えた。後の時代に伝えているように余白を残す、柔らかな発想に注視したい。(力)

◆赤谷の土砂災害現場にて。一瞬にして川が山を呑み込んだような、荒涼とした風景に膝が震えました。空はよく晴れていましたが、黄泉とはこんな眺めかもとさえ思ったり。「よみがえる」という言葉の意味が少しわかった気がします。(麻)

◆アスファルト舗装が途切れた所に、注連縄が張られ紙垂(しで)が下がる。結果だ。その先の小川に橋はなく、川底に石畳が敷かれている。増水すれば渡れない先にある、我が家。不便を楽しみながらも、橋が架かるのを期待。(賀)

ミツカン水の文化センター機関誌

水の文化

第 47 号

ホームページアドレス
<http://www.mizu.gr.jp/>

※ 禁無断転載複製

発行日 2014年(平成26)6月

企画協力 沖 大幹 東京大学生産技術研究所教授
古賀邦雄 水・河川・湖沼関係文献研究会
島谷幸宏 九州大学工学研究院教授
陣内秀信 法政大学教授
鳥越皓之 早稲田大学教授
中庭光彦 多摩大学准教授

制作 後藤喜晃 新美敏之 佐伯亜友美 小林夕夏 原田朱野

編集製作 賀川一枝 編集長 小野田麻里 中野公力 賀川督明 撮影・デザイン

発行 ミツカン水の文化センター
〒104-0033 東京都中央区新川1-22-15 茅場町中埜ビル4F
株式会社 Mizkan Holdings
Tel. 03 (3555) 2607 Fax. 03 (3297) 8578

お問い合わせ ミツカン水の文化センター 事務局
〒104-0043 東京都中央区湊3-4-10 レジディア10F
Tel. 03 (3552) 7504 Fax. 03 (3552) 7506